総合計画審議会の審議状況について（第10回袋井市総合計画審議会　議事要旨）

第3次総合計画 前期基本計画(素案)について［まとめ］

【開催概要】

第10回袋井市総合計画審議会を、以下の通り開催しました。第10回の意見交換では、第3次総合計画前期基本計画(素案)について、各委員からご意見を頂きました。

日時	令和7年7月16日(水)18時30分～20時30分
場所	袋井新産業会館キラット　あきはホール
内容	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 ⑴ 第3次総合計画 前期基本計画(素案)について ⑵ 意見交換 4 事務連絡 5 閉会

【意見交換での主な意見】

■行政経営方針の見直しについて

- 全体的にイメージしやすくなった。基本理念に「多様な主体」との関りを掲げている点が評価できる。
- 官民共創については、「行政だけでは困難な課題に対処する」といったネガティブな理由ではなく、「民間の力を活用することで、より良いサービスが提供できる」というポジティブな視点で取り組むことが大切。
- 市職員は、地域内外の外部資源を有効活用し、課題解決していくマネージャー的な存在になることを目指すべき。
- 行政経営方針が総合計画と一体化させた価値を正しく、伝えられる工夫が必要。
- 基本理念が「未来を創る」となっているが、未来に目を向けるのではなく、基本構想に掲げた「ずっと続く」(過去や今を大切にすることが、未来につながる)考え方を踏まえた表現になると良い。
- 方針としては良いが、これをどのようにして具体的なアクションにつなげていくのか、また、運用としてどのようにPDCAサイクルを回していくのかが見えにくい。この方針を進めていくためには強い覚悟が求められる。
- 言葉が難しいので、市民の方にも「わかりやすい表現」などの工夫が必要。
- 袋井市は長期的には自立して財政運営できる自治体を目指すべきだが、当面は国からの補助金等に依存しながら、近隣自治体や民間企業との連携を進めていくことになると思う。そのため、総合計画の各種施策の推進にあたっては、市独自に展開するものと、近隣の自治体と連携するもの、PFI、PPPを含む民間事業者と連携するものなどに区分して進めることを常に意識することが重要であり、アクションプランを継続的に推進していく必要がある。

■指標について

①政策指標

- まちの将来像「にぎわいずっと続くまちふくろい」を定量的な目標で可視化することは、市民にも実感が湧きやすくなるので進め方は非常に良い。
- 政策指標(市民の実感)について、どうすれば数値が上がるか明確な答えはない。市として、どのような取組が市民の実感を高めることにつながるのか議論したり、日ごろの業務で意識していくことが重要となる。
- アンケート結果はサンプルによっても変動するもの。市民アンケートだけに頼って判断することの危うさがあるので、主観指標と客観指標との組み合わせなど、多角的に評価していくことが望まれる。
- 市民の実感を確認していく取組姿勢は重要。一方、市民の実感は、アンケートの聞き方や社会情勢の変化などの影響を受けやすいことを理解し、調査結果に一喜一憂　することがないように、取り扱いは検討する必要がある。
  また、アンケートを実施する際は、回答者が判断しやすくなるように参考資料を提示するなど工夫が必要。

②取組指標

- 取組指標について、例えば、実施回数を増やすことを目標にしているものがあるが、回数を増えても質が低下しては意味がない。各指標について、その項目で本当に良いかよく精査する必要がある。
- 取組指標について、政策指標(市民の実感)を上げていくことにつながっていないものがある。数ある客観指標の中にも市民の実感につながる重要な指標と、それとは別に把握しておくべき指標があると思うので、取組指標を選定する際には、これらを整理した方が良い。